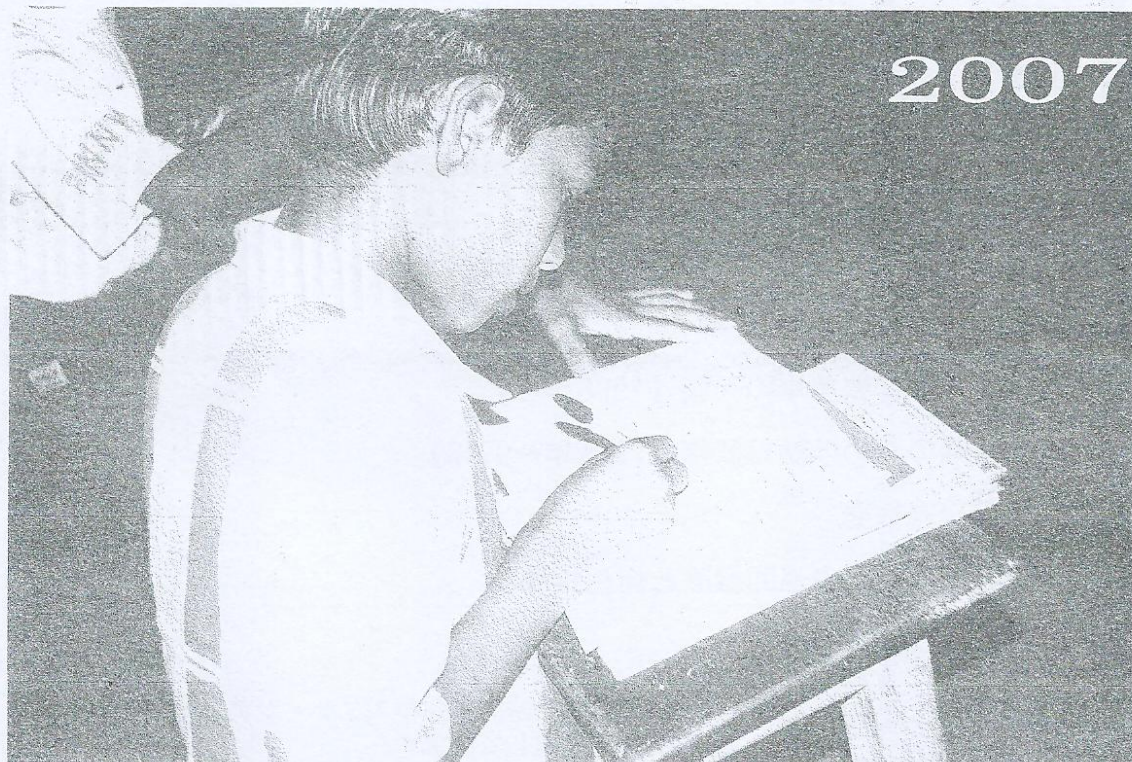


特定非営利活動法人

Bangladesh と手をつなぐ会

ミロン

No.112



特定非営利活動法人

Bangladesh と手をつなぐ会

福岡市早良区西新5-4-20

TEL&FAX:092-844-1369

ホームページ:<http://bangla.nngo.jp>

※「ミロン」は一つになる、  
手をつなぐという意味のベンガル語です。

## ■ アジアの子どもたちの未来のために ■

### バングラデシュと手をつなぐ会へあなたも参加しませんか

バングラデシュと手をつなぐ会では、バングラデシュ・カラムディで  
現地の村人による開発のための委員会「ションダニ・ションスタ」と  
協力して【教育】と【医療】の分野で次のような支援活動を行っています。

#### 教育の分野では

将来を担う子どもたちの  
教育の普及と向上のために

- ① 小学校の建設 【1987～89年】とその後の運営支援
- ② 貧しくて学校へ行けない子ども達への奨学金制度
- ③ 職業訓練【ミシン】で技術を身につける
- ④ 教科書図書館【教科書が買えない中学生のために、  
教科書の貸出】

#### 医療の分野では

命と健康を守るために

- ① 母子保健センターの建設【1995年】とその後の運営支援
- ② 医療設備の充実
- ③ 緊急患者対応のために救急車の配備【1998年～】
- ④ 現地医師、看護婦のための訪日研修【1995年～97年】
- ⑤ 出産前女性への母親教室
- ⑥ 村の保健衛生向上のための巡回健診と衛生指導



#### 国内活動では

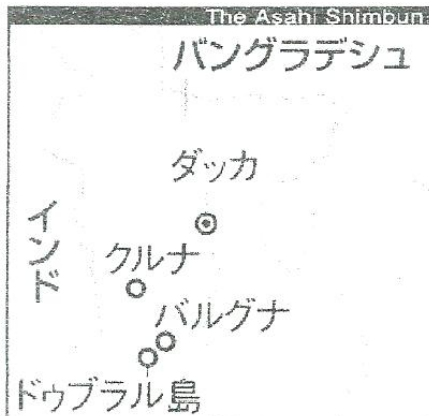
夏の現地訪問、冬のスタディツアーを  
毎年実施しています。

- ① 会報誌【ミロン】の発行
- ② 定例会の開催【参加型学習会など】
- ③ 現地訪問の報告会の開催、報告書作成と記録ビデオの製作
- ④ チャリティコンサートおよびバザー
- ⑤ 総会【毎年4月、予算・決算と活動方針やその決定など】

！！ サイクロン被災者募金にご協力ください ！！

11月15日夜ベンガル湾に発生したサイクロンがバングラデシュ南部に上陸、激しい風で大きな被害が出ました。家や木が倒れ、船やボートが沈没し、シュンドルボン地域のベンガル虎などの動物が被害を受けています。18日現在、2,000人以上の人が死亡、最終的には死者は1万人に達するとも言われています。中には、子どもや年寄り以外みんなが亡くなったり行方不明の家族もあります。サイクロンの2日前からラジオやテレビで放送がありましたが、どこまで逃げればいいのか、またどこに逃げればいいのか、分からない人も大勢いたようです。新聞によると、この地域の300万のうち150万人はシェルターに入ったが、残りの150万人はどうしているか分かりません。時間とともに死者や行方不明者が増加すると思います。また怪我による死亡者や病人も増えると思います。

バングラデシュ政府は必死で支援活動や復興活動をしています。海軍はすでにベンガル湾に着き、陸軍も到着、空軍は飛行機から飲み水を落としたり、ヘリで食べ物を運んだりしています。また政府は各県に支援本部を置き、特別支援活動を行っています。また国民や海外に支援を要請しています。



さいわいカラムディ村の地域には被害はなかったそうです。バングラデシュと手をつなぐ会でも、募金活動と呼びかけます。12月の募金をすべてサイクロン募金とします。また、同封の振込用紙に「サイクロン募金」と記入してお送りくだされば、サイクロン募金として現地に送ります。これらは、福岡のバングラデシュ留学生グループとともに行き、彼らのグループを通じて、現地に届けます。また、イベントや街頭での募金活動も行う予定です。会員の皆さんもどうぞご協力ください。

(二ノ坂 保喜)

ミロン号目次	
あいさつと目次	1
カラムディ村便り～現地報告～	2～3
バングラデシュでのサイクロン	4
スカラシップ（奨学金）の子供たち	5
イベント報告	6～7
会計報告・行事予定	8
イベント告知	裏表紙

# ～カラムディ村便り～

ラフマン・モクレスール

## ■サイド医師、お疲れさまでした。

サイド医師はシヨンダニ・シヨンスタの病院に8年間勤務し、今年10月16日に退職しました。

田舎の病院で働く医師はなかなか見つからず、来ても短期間で退職していくのが現状です。母子保健センターでも95年に開院以来、何人もの医師が赴任されましたが、半年～1年で退職してきました。そんな状況のなかでサイド医師は8年間にわたり、勤務してくれました。この度、都会のクリニックに勤務するというので退職しましたが、長年にわたって村人のために働いてくださったことを心から感謝し、健康でこれからも仕事を続けられることを祈っています。

## ■医師や看護師不在のシヨンダニ病院

2007年1月11日付け現在の暫定政権が発足して以降、政府は様々な改革に取り組んでいます。その中のひとつに、クリニックや病院はベッド数によって必要な数のスタッフを確保するということがあります。特に個人経営のクリニックは今まで少ないスタッフで運営していましたが、政府の方針に従って高額な給料を支払っても医師や看護師を採用し始めました。結果として、田舎に勤務していた職員は都会の病院へ流れ、農村地域に活動しているNGOが困っています。シヨンダニは何度も全国版の新聞に広告を掲載し、口コミで公募したりしましたが、誰も応募してきません。

10月16日から医師もなく、正看護師もいません。実際は医師より看護師不足の方が深刻です。現在、1人の準看護師と4人のソーシャル・ワーカーで産科病棟を担当しています。正常出産であれば問題ありませんが、難産の場合の対応をどうするかが心配です。また、そのような問題はいつ起こるか誰もわかりませんので、シヨンダニの運営メンバーたちはとても心配しています。

## ■10月に最高の出産件数

そんな状況の中でもシヨンダニの病院では10月に53名の命が誕生しました。11月13日現在14人の赤ちゃんが誕生しました。これは今年度の最高の数です。嬉しい反面、とても心配です。もし難産の妊婦さんが来院したら専門知識のないソーシャル・ワーカーたちはどうするか、誰と相談するか、どのように判断するかよく考えなければなりません。一日も早く医師や看護師が見つかることを願っています。

## ■暗闇の中ちよつとの光

11月14日シヨンダニに電話したところ、Dr.Shumon という医師が11月12日にシヨンダニの病院を見に来たことを聞きました。彼は一晩泊まり、翌夕方ダッカへ戻ったようです。その結果、今月17日からの赴任が決まりました。いい展開ではありますが、彼がダッカから村に来て本格的に仕事を始めない限り、大きな希望をもてない状態です。

Dr.Shumon はロシアの大学で医学を勉強し、バングラデシュの Faridpur Medical College で2004年にインターンを受けました。その後、ダッカでNGO経営の urban primary health care に関する仕事をしていました。彼の医療技術面でのスキルは分かりませんが、NGOに勤務したことがきっとプラスになるのではないかと思います。

彼の採用にはいくつかの条件があります。彼は今ダッカでエコーの研修を受けており、来年1月末までかかるそうです。研修修了まで彼は毎週木曜日朝から土曜日昼まで村を離れます。たった一人の医者なので、彼がいないときどうするかという課題が残ります。また彼の奥さんが現在医学を勉強しています。来年卒業後、彼女も雇って欲しいと要請があったようです。給料もサイド医師の倍、つまり月間4万タカを支払うことで合意しているようです。奥さんを雇うとすれば、彼女には3万タカを支払う予定とのことです。

看護師をどうするかと尋ねると、今あらゆる手段を使ってもなかなか誰も手を上げていません。正看は月給1万タカ、準看は8千タカを提示していますが、今はお金払っても人がいないのが現状です。

## ■村人の反応

村人は今まで時間もあまり気にすることなく、体調が悪くなったら病院に来ていました。都会の病院へ行くのと違い、時間も交通費も掛からず、診察料も安くて済んでいました。村の病院に慣れていた分、病院サービスが受けられない状況にとっても困っているようです。村人はシヨンダニが必死で医者や看護師を探していることを理解していても、いざという時に病院を利用できないことはとても不便で残念に思っています。村人たちもまた、早くこの問題が解決されることを願っています。また、カラムディ村出身の子ども達の中からぜひ医者や看護師になって欲しいとみんなは痛感しています。



# バングラデシュでのサイクロン 発生日時 11月15日夜9時

## DEATH, LOSS

*Primary official estimate*

Death toll	: 2,300
Death feared	: 10,000
Affected families	: 8.87 lakh
Livestock death	: 2.42 lakh
Crops destroyed	: 23,000 acres



11月15日夜9時頃バングラデシュの南西地域が大きなサイクロンに見舞われた。ベンガル湾に発生したサイクロンが次第に北上し、人々が寝ようとした時間に時速260キロから280キロスピード（瞬間風速六〇<sup>km/h</sup>）の猛烈な風と5メートルの高

い波が襲ってきた。政府はサイクロンが来る2日前からラジオやテレビなどを通じて安全な場所に避難するように人々に呼びかけたが、避難する場所もなく、多くの人々が犠牲になった。政府の報告によると、11月18日現在、死者2,300名、赤十字の発表によるとその数が10,000人に増加する可能性がある。完全にあるいは部分的に倒れた家は約90万、死亡した家畜は25万、作物破壊は23,000エーカーなどである。

また一番被害を受けているのは、南部の世界遺産になっているシュンダルボン地域である。この地域に世界一の広さのマングローブが生殖し、ベンガル虎や鹿や蛇なども暮らしている。蜂蜜もたくさん取れる。この20年間にわたって多くの農民はえびを養殖し生活資金にしている。これらの資源が絶滅し、これから取り戻すことができない状況に陥っている。シュンダルボンがなかったら、人的被害がもっと大きかっただろうといわれている。海から海水が入り込み、これからの農業にも大きな打撃になる。何よりも精神的なショックが非常に大きい。1人の女性が3人の子どもと1人の孫を亡くし、その死体の横に無表情で座っている写真が印象的である。子どもしか残っていないあるいは年寄りだけが残っている家族も大勢いる。この人々の復興支援や心のケアがこれから課題である。

サイクロンについてある程度予測できたので、政府はサイクロンが通過した直後から怪我人の治療や食糧の配布活動を行っている。しかし道路が寸断され、橋が壊れ、木が倒れ、援助物質があってもそれを本当の被害者に届けられない現状だ。飲み水、毛布、テント、薬などが必要だそうである。

昨夜、福岡在住バングラデシュ人で構成している BDFukuoka の役員会を開き、募金を呼びかけている。できるだけ早くこの状況に対応できるように、みんな一丸となって募金を集め、バングラデシュ政府の災害支援ファンドに送る予定。多くの人々のご協力をお願い次第である。(ラフマン)

# ★スカラシップ★

Bangladesh と手をつなぐ会 & ションダニ・ションスタの活動のひとつとしてスカラシップ(奨学金)の支援があります。 Bangladesh では女子の結婚年齢を引き上げる意図もあり、効率の中学校は女子生徒の授業料が免除されています。

掲載している写真は、その奨学生たちです。今回は6年生~8年生 ( Bangladesh では中学生) をご紹介します。みんな元気に勉学に励んでいます。

6年生



~私は将来クシティア MBBS の医者になります~

(6年生、jamil hossain さん)

※クシティア：カラムディ村近郊の都市名



7年生



8年生

~私の目標は医者になること~

(8年生、Almas Hossen さん)

# イベント報告



## 長薬大同窓会研修会にて活動展示

9月9日(日)、西日本新聞会館16F 福岡国際ホールにて、長崎大学薬学部同窓会福岡浦陵会の総会・研修会がありました。二ノ坂医師が講演をされたこともあり、会場の一角にバングラデシュと手をつなぐ会の活動紹介コーナーを設けさせていただきました。配布資料や写真パネル等で活動を紹介させていただいたほか、募金にも多くご協力いただきました。ご尽力くださった会員の青木さんをはじめ浦陵会のみなさま、ご協力ありがとうございました!(洲上)



## 国際協カフェスタ『地球市民どんたく2007』

9月13日(木)~17日(月・祝)の5日間にわたり、毎年恒例の国際協カフェスタ『地球市民どんたく2007』が福岡市役所前広場にて開催されました。バングラデシュと手をつなぐ会も、16日(日)と17日(月・祝)の両日ブースを出展しました。最高気温34℃を超える(!)猛暑の中ではありましたが、たくさんのボランティアさんにお手伝いいただきながら、来場者の方々に会の活動を紹介することができました。お手伝いくださった方々、ご協力ありがとうございました!(洲上)



## バングラデシュ現地訪問報告会

9月29日(土)17:00から、バングラデシュ現地訪問報告会が、福岡市NPO・ボランティア交流センターあすみん(福岡市中央区大名2-6-46 福岡市青年センター5階)にて行われ、約40名のご参加がありまして、会場がほぼいっぱいになるくらいでした。



8月17日～25日に行われたバングラデシュ現地訪問に参加した8名が、現地で感じたことを、短い持ち時間の中で、思い思いに話しました。報告会に初めて参加された方を中心に、バングラデシュの文化に関すること、現地の人たちの生活に関すること、子どもたちの学校生活に関することなどについて、質問が多く寄せられまして、とても活発な報告会でした。（堀）



## 市民活動まつり in ふくおか

今年初めての試みとして、九州各県からコミュニティビジネスの実践者や、市民活動団体が一同に介す発表会&まつりが10月6日（土）・7日（日）の2日間福岡市役所西側ふれあい広場で開催されました。

バングラデシュと手をつなぐ会もブースを出店し、ボランティアグループ「一歩会」の方々に民芸品販売のご協力を得て、バングラデシュ・カラムディ村での活動の様子も紹介することができました。

インターネットで会場の様子の中継するブースやハンドセラピーで来場者を癒してくれるブースがあったり、全く違う分野の活動団体が集合した楽しいおまつりでした。（中島）



## 秋のチャリティーバザー

10月28日（日）、秋のチャリティーバザーが、さわやかな秋晴れのもと、にのさかクリニック駐車場にて行われました。

まずは“山の音楽家SHANA”のおふたりと“ひまわりFOUR”のオカリナミニコンサート。秋らしい曲を中心に演奏し、観客の皆さんは大喜びでした。

そしてバザー開始。提供品をはじめ、バングラ紅茶、お花、Iさんの漬物や野菜、ぜんざい、21の会のかしわ飯や手作り小物販売、今夏現地訪問に参加したYさんの柿や新米等々バラエティに富んだ品揃え。お目当てのものを買い求めるお客さんでいっぱいでした。

バザーの後半には、昨年冬のスタディーツアーに参加されたKさんによるお手玉教室が行われました。助手は昨年夏の現地訪問に参加したK君とS君がつとめてくれました。客席の皆さんはお手玉トスに悪戦苦闘しながら、お手玉を楽しんでいました。

売り上げや募金、寄付を含めて、約12万円が集まりました。バングラデシュの明るい未来づくりに役立つことを願っています。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。（堀）

<会計報告>

※募金協力 (敬称略)

江頭毅	足立京子	安藤正司	山下久代
佐伯邦男	井原環	小崎隆子	小川宮子
下田廣子	芹田裕子	進藤靖子	小山田浩定
今給黎靖子	さわやかテラス	福山トシ子	田中兆子
2007 夏訪問団	堀哲也	早良更生園	福本トシ子
山崎博敏	福田シゲノ	望月銀子	はびね福岡募金箱
藤野萬璃子	濱良枝 上里	トミタケイコ	このさかクリニック募金箱
長崎母子保健センターを支援する会			ソロプチミスト福岡-北

※旅費のカンパ (敬称略)

井上伊磨子 村里やよい

※新会員紹介 (敬称略)

八尋俊次 濱田絹子 坪内由華里 村田美樹

《11月17日現在》

♪♪ ご協力ありがとうございます ♪♪

これからの行事予定

月日	時間	内容	場所
12月6日(木)	19時集合	忘年会 (だれでも大歓迎)	青年センター1Fロビー集合 <福岡市中央区大名2-6-46>
12月20日(木)	19時~	運営委員会	西新事務所
平成20年 1月10日(木)	19時~	事務局会議	西新事務所
1月24日(木)	19時~	運営委員会	西新事務所
1月27日(日)	10時~ 受付開始	バングラ料理教室	あいれふ調理室・婦人会館8F・ <福岡市中央区舞鶴2-5-1> ☎092-712-2662
2月2日~3日 ※予定	15時~ 翌11時迄	宿泊研修(会員対象)	旅館西新※予定

※御 礼※

今年も皆様のご協力を得て、カラムディ村のNGO ションダニ・ションス  
タへ運営資金を送金することができました。御礼申し上げます。  
来年2月には会員を対象とした研修会を予定しています。会の歴史や現  
地の状況のほかに、これからの活動についても一緒に考えていただきた  
くて、宿泊研修を企画しました。皆様の参加をお待ちしています。

※事務所 FAX092-844-1369

# バングラデシュ体験のススメ

**国外編**

## 冬のスタネィーツアー

バングラデシュのカラムディ村を訪問するツアーです。  
百聞は一見にしかず。先ずは現地に行ってみる！  
人や自然や食べ物や・・・ステキな出会いがあるはずです。



期間：3月上旬

参加費：200,000円（航空運賃、現地滞在費／※ビザ代、保険料別）

定員：10名（最少催行人数2名）

申込み締切：1月末日

申込み方法：電話にてご連絡ください。

※訪問にあたっては、数回の事前学習会を行います。

**国内編**

## バングラ料理教室

食べ物から考えるバングラデシュ。今年のメニューは何でしょうか？  
年に一度のバングラ料理教室。楽しみにしている方も多いのでは？  
お申込みはお早めに♪

日時：1月27日（日） 10：30～15：00

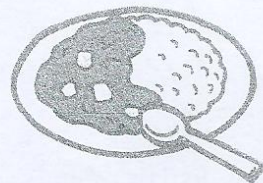
参加費：1,000円

場所：あいれふ（福岡市中央区舞鶴2-5-1 婦人会館）

定員：30名

当日持参するもの：エプロン

申込み方法：電話にてご連絡ください



主催&問合せ先：（特活）バングラデシュと手をつなぐ会  
（TEL：092-872-1136 にのさかクリニック）

■入会のご案内

会員募集中

バングラデシュと手をつなぐ会にあなたも参加しませんか？

バングラデシュと手をつなぐ会では、バングラデシュ・カラムディ村の教育と医療への協力活動を支えてくださる会員を募集しています。

会員 会の運営にかかわり手伝い方：総会の議決権を有します。

会費 月額500円 年間6,000円

賛助会員 会の趣旨に賛同し、ご協力いただける個人または団体の方。

会費一口月額1,000円年間12,000円

※ 何口でも結構です。

会費振込先 郵便振替口座 01720-2-10442

加入者名 バングラデシュと手をつなぐ会

※入会をご希望の方は、以下の用紙にご記入の上、郵送またはFAXにてお送りください。

〒814-0002 福岡市早良区西新5-4-20 バングラデシュと手をつなぐ会

TEL&FAX 092-844-1369 <http://bangla.nngo.jp>

きりとりせん

■バングラデシュと手をつなぐ会入会申込書■

申込み年月日 年 月 日

フリガナ

氏名 \_\_\_\_\_ 男・女

生年月日 明・大・昭・平 年 月 日 才

職業 \_\_\_\_\_

住所 〒 \_\_\_\_\_

電話・FAX \_\_\_\_\_ E-mail \_\_\_\_\_ @ \_\_\_\_\_

会員  協力会員 として入会を申し込みます。

会費は \_\_\_\_\_ 年 月分 から \_\_\_\_\_ 年 月分までの

\_\_\_\_\_ 円を  直接  郵便振替で納めます